

第16回左京フォーラム

2017年6月

経済一辺倒の社会を問う

成長の限界と地球資源 ～『縮小社会』への道



講師

松久 寛

まつひさひろし 1947年生れ
京都大学名誉教授、
一般社団法人 縮小社会研究会
代表理事

京都大学で機械工学の研究。
2012年3月定年退職。
1973年に公害や労働災害の支
援活動をする京都大学安全セ
ンターを設立。2008年に縮
小社会研究会を設立。

『縮小社会への道－原発も経済成長もいらない幸福な社会を目指して－』
編著（日刊工業新聞社 2012年）
『楽しい縮小社会－「小さな日本」でいいじゃないか』
著（森まゆみ氏との共著）（筑摩選書 2017年6月13日発行予定）

「戦争をさせない左京1000人委員会」は、
人びとのいのちを大切にすること、子どもや孫
の世代が安心して暮らせる世の中にするこ
とを願い、絶対に戦争への道を進まないため
に多くの人に輪を広げたいと思っています。

連絡先：戦争をさせない左京1000人委員会
京都市左京区田中里の前町21 石川ビル305
NPO法人 市民環境研究所
TEL & FAX 075-711-4832
E-mail pie@zpost.plala.or.jp

2017年 6月25日(日)

講演 午後 2時～4時 (開場 1時45分)

場所 同志社大学 志高館 SK110

入場料無料 申込不要 会場で有志カンパをお願いします

講演要旨：世界は経済成長を善としているが、資源と環境
の制約下では、永遠の経済成長は不可能である。

毎年何パーセントという右肩上がりの成長の持続は、資源
枯渇、環境破壊、弱肉強食、戦争、破滅に至る。採掘可能な
化石燃料は約100年分といわれているが、たとえ2%の成長
でも、それは54年で枯渇する。しかし、毎年1%ずつ消費量
を縮小すると残存量は永遠に100年分になり、それ以上に
縮小すると残存年数は増加する。

子孫が生き延びるためには、縮小しかない。人口、消費量など
が縮小しても、質的に豊かな社会を創出することができる。

同志社大学 烏丸キャンパス 志高館 烏丸今出川交差点より北に500m
京都市上京区相国寺門前町 647-20



建物中央の入口左より
お入りください

(北側に駐輪場あり)



戦争をさせない左京1000人委員会 (この講演会はNPO法人市民環境研究所との共催です)